

# マイワシ



## 生態的特徴等

### 【生態】

日本周辺に広く分布し、季節により大きく回遊する。太平洋側では春から夏にかけて房総～三陸沖を北上し、道東周辺で夏を過ごした後、秋から冬にかけて三陸～房総海域を南下する。成魚は関東近海から四国沿岸で産卵するが、未成魚は常磐～房総海域で越冬する。産卵期は11～6月で盛期は2～4月である。動物プランクトンを食べて成長するが、成魚は植物プランクトンも食べることができる。2歳でほとんどが成熟し、寿命は7歳程度である。成長に伴って呼び名が変わり、ヒラゴ（体長：10 cm前後）、小羽（12～13 cm）、小中羽（14～15 cm）、中羽（16～17 cm）、ニタリ（18～19 cm）、大羽（20 cm～）と呼ばれる。

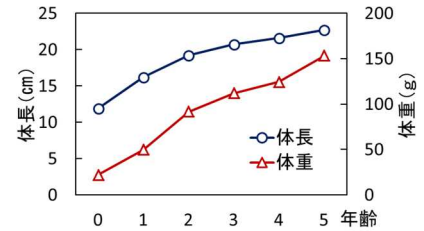


図1 マイワシの成長

### 【漁法と盛漁期】

茨城県では、主にまき網で漁獲される。晩秋～初冬は産卵に向かう中羽～大羽、冬～春は未成魚越冬群（小羽～小中羽）、晩春～初夏は産卵後の中羽～大羽の漁場が形成される。

### 【利用】

刺身や塩焼のほか、丸干し、缶詰、魚粉などの加工原料や近年は冷凍輸出品としても利用されている。栄養豊富で、血液をサラサラにして成人病予防に役立つEPAを多く含んでいる。産卵後に北上回遊を始めた魚は脂がのり、特に梅雨時期に漁獲されるものは「入梅イワシ」と呼ばれている。

## 資源は増加傾向

（漁獲量）マイワシは数十年スケールで大規模に変動する資源であり、S50年代に急増した漁獲量はH元年まで200万トを超えていたが、その後急減してH17年には約8千トとなった（図2）。H22年以降は増加傾向に変わり、資源量の増加に伴って分布域が拡大し、一時途絶えていた道東沖の漁場が復活、漁獲量も増加している。

（加入量）冬春季に常磐～房総海域で漁獲される未成魚越冬群（1歳魚）の漁獲状況で加入状況を判断した（図3）。H13～21年級群はほとんど加入がみられなかったが、H22年級群以降は中位～高位の加入がみられるようになってきている。

（水準と動向）未成魚越冬群資源量指数からH29年級群は「高位」水準で、過去5ヶ年の資源量指数の傾きから動向は「増加」とした（図3）。

水準



動向

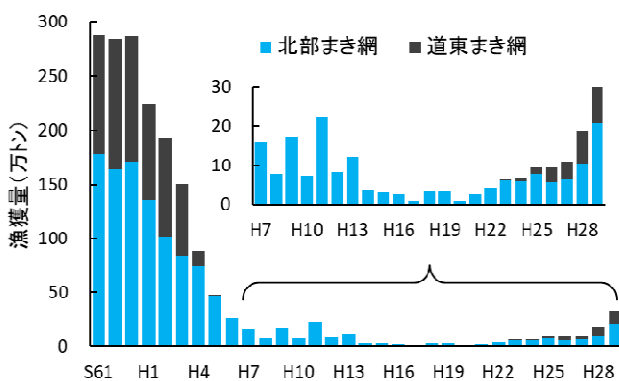


図2 マイワシ漁獲量<sup>※1</sup>の推移

※1 千葉県から青森県沖で操業するまき網の漁獲量で、北部太平洋まき網漁業協同組合連合会の集計値（北部まき網）および道東沖で操業するまき網の漁獲量で、北海道まき網漁業協会の集計値（道東まき網）

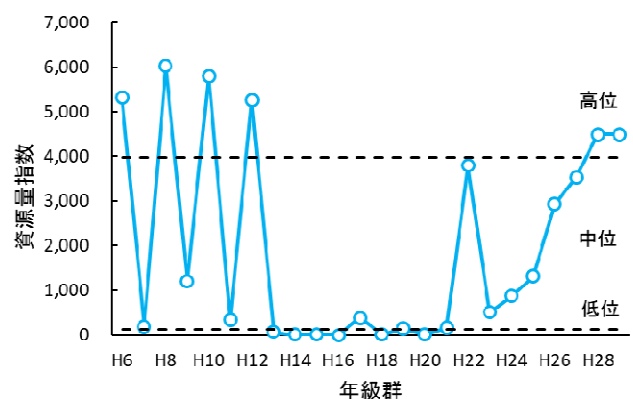


図3 未成魚越冬群資源量指数<sup>※2</sup>の推移

※2 未成魚越冬群資源量指数：まき網による緯度・経度10分マス目内の平均漁獲量の総和を日別に集計した数値で、冬春季に出現した1歳魚資源量の指標

### 【全国の漁獲動向】

- ・茨城県は全国第1位（H29農統）、2位は三重県、3位は千葉県
- ・北海道では、ロシア水域内で操業禁止となったさけ・ます流し網漁業の代替として、平成28年から棒受網によるマイワシ・サバ類の漁獲が開始されている。